

平成25年度 広島大学 2次試験前期日程(数学問題)120分  
 教育(第一類・第二類(技術・情報系)・第四類(人間生活系))・  
 経済(昼)・歯(航空健康科学(口腔保健))

1 放物線  $y = 2x^2 - 8$  を  $C$  とする.  $x$  軸上の点  $A(a, 0)$  ( $a > 0$ ) を通り  $C$  と接する直線が2本あるとき, 次の問いに答えよ.

- (1)  $a$  の値の範囲を求めよ.
- (2) 2つの接点  $P, Q$  の  $x$  座標をそれぞれ  $\alpha, \beta$  ( $\alpha < \beta$ ) とする.  $\beta - \alpha = 3$  のとき,  $a$  の値と2本の接線の方程式を求めよ.
- (3) (2) で求めた2本の接線と  $C$  で囲まれた部分の面積を求めよ.

2 座標平面上に点  $A(\cos \theta, \sin \theta)$  ( $0 < \theta < \pi$ ) がある. 原点を  $O$  とし,  $x$  軸に関して点  $A$  と対称な点を  $B$  とする. 次の問いに答えよ.

(1)  $-1 < \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} \leq \frac{1}{2}$  となる  $\theta$  の範囲を求めよ.

(2) 点  $P$  を

$$\overrightarrow{OP} = 2\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB}$$

で定める. 点  $P$  から  $x$  軸に下ろした垂線を  $PQ$  とする.  $\theta$  が(1)で求めた範囲を動くとき,  $\triangle POQ$  の面積の最大値を求めよ.

3 関数  $f(x) = \log_2(x+1)$  に対して, 次の問いに答えよ.

(1) 0以上の整数  $k$  に対して,  $f(x) = \frac{k}{2}(f(1) - f(0))$  を満たす  $x$  を  $k$  を用いて表せ.

(2) (1)で求めた  $x$  を  $x_k$  とおく.  $S_n = \sum_{k=1}^n k(x_k - x_{k-1})$  を  $n$  を用いて表せ.

4 座標平面上で, 原点  $O$  を中心とする半径1の円を  $C$  とし, 2点  $P(0, 1), Q(s, 0)$  を考える. 2点  $P, Q$  を通る直線を  $l$  とし,  $l$  と  $C$  の交点のうち  $P$  ではないものを  $R$  とする. 次の問いに答えよ.

(1) 点  $R$  の座標を  $s$  を用いて表せ.

(2)  $x$  座標と  $y$  座標がともに有理数である点を有理点という.  $s$  が有理数のとき,  $R$  は有理点であることを示せ.

- 5 座標平面上の点で、 $x$  座標と  $y$  座標がともに整数である点を格子点という。  $n$  を 3 以上の自然数とし、連立不等式

$$x \geq 0, \quad y \geq 0, \quad x + y \leq n$$

の表す領域を  $D$  とする。格子点  $A(a, b)$  に対して、領域  $D$  内の格子点  $B(c, d)$  が  $|a - c| + |b - d| = 1$  を満たすとき、点  $B$  を点  $A$  の隣接点という。次の問いに答えよ。

- (1) 点  $O(0, 0)$  の隣接点をすべて求めよ。また、領域  $D$  内の格子点  $P$  が直線  $x + y = n$  上にあるとき、 $P$  の隣接点の個数を求めよ。
- (2) 領域  $D$  内の格子点のうち隣接点の個数が 4 であるものの個数を求めよ。
- (3) 領域  $D$  から格子点を 1 つ選ぶとき、隣接点の個数の期待値が 3 以上となるような  $n$  の範囲を求めよ。ただし、格子点の選ばれ方は同様に確からしいものとする。

## 解答例

1 (1)  $C: y = 2x^2 - 8$  より  $y' = 4x$

$C$  上の点  $(t, 2t^2 - 8)$  における接線の方程式は

$$y - (2t^2 - 8) = 4t(x - t)$$

すなわち  $y = 4tx - 2t^2 - 8 \dots \textcircled{1}$

この直線が点  $A(a, 0)$  を通るから

$$0 = 4ta - 2t^2 - 8$$

ゆえに  $t^2 - 2at + 4 = 0 \dots (*)$

この2次方程式は異なる2つの実数解をもつから、係数について

$$D/4 = (-a)^2 - 1 \cdot 4 = a^2 - 4 > 0$$

$a > 0$  に注意して、これを解くと  $a > 2$

(2)  $\alpha, \beta$  ( $\alpha < \beta$ ) は方程式  $(*)$  の解であるから、解と係数の関係により

$$\alpha + \beta = 2a > 4, \quad \alpha\beta = 4$$

$\beta - \alpha = 3$  および上の2式との連立方程式を解くと

$$\alpha = 1, \quad \beta = 4, \quad a = \frac{5}{2}$$

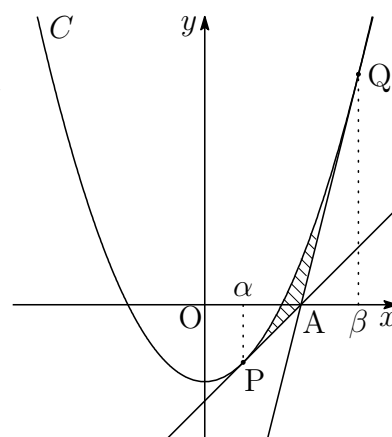
2本の接線の方程式は、 $t = 1, 4$  を  $\textcircled{1}$  に代入することにより

$$y = 4x - 10, \quad y = 16x - 40$$

(3) 求める面積を  $S$  とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_1^{\frac{5}{2}} \{(2x^2 - 8) - (4x - 10)\} dx + \int_{\frac{5}{2}}^4 \{(2x^2 - 8) - (16x - 40)\} dx \\ &= \int_1^{\frac{5}{2}} 2(x - 1)^2 dx + \int_{\frac{5}{2}}^4 2(x - 4)^2 dx \\ &= \left[ \frac{2}{3}(x - 1)^3 \right]_1^{\frac{5}{2}} + \left[ \frac{2}{3}(x - 4)^3 \right]_{\frac{5}{2}}^4 = \frac{9}{2} \end{aligned}$$

補足  $a = \frac{\alpha + \beta}{2}$ ,  $C$  と直線  $PQ$  で囲まれた部分の面積を  $S_0$  とすると<sup>1</sup>,  $S = \frac{S_0}{2}$



<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_bun-2009.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_bun-2009.pdf) 4 を参照.

- 2** (1)  $A(\cos \theta, \sin \theta)$  より,  $B(\cos \theta, -\sin \theta)$  であるから

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \cos^2 \theta - \sin^2 \theta = \cos 2\theta$$

$$-1 < \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} \leq \frac{1}{2} \text{ より}$$

$$-1 < \cos 2\theta \leq \frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{\pi}{3} \leq 2\theta < \pi, \quad \pi < 2\theta \leq \frac{5}{3}\pi$$

$$\text{よって} \quad \frac{\pi}{6} \leq \theta < \frac{\pi}{2}, \quad \frac{\pi}{2} < \theta \leq \frac{5}{6}\pi$$

- (2)  $\overrightarrow{OP} = 2\overrightarrow{OA} + \frac{1}{2}\overrightarrow{OB}$  より

$$\overrightarrow{OP} = 2(\cos \theta, \sin \theta) + \frac{1}{2}(\cos \theta, -\sin \theta)$$

$$= \left( \frac{5}{2} \cos \theta, \frac{3}{2} \sin \theta \right),$$

$$\overrightarrow{OQ} = \left( \frac{5}{2} \cos \theta, 0 \right)$$

$$\text{ゆえに} \quad \triangle POQ = \frac{1}{2} \left| \frac{3}{2} \sin \theta \cdot \frac{5}{2} \cos \theta \right| = \frac{15}{16} |\sin 2\theta|$$

$$\text{よって} \quad 2\theta = \frac{\pi}{2}, \frac{3}{2}\pi, \quad \text{すなわち, } \theta = \frac{\pi}{4}, \frac{3}{4}\pi \text{ のとき, 最大値 } \frac{15}{16}$$

- 3** (1)  $f(x) = \log_2(x+1)$  より  $f(0) = 0, f(1) = 1$

$$f(x) = \frac{k}{2}(f(1) - f(0)) \text{ より}$$

$$\log_2(x+1) = \frac{k}{2}(1-0) \quad \text{よって} \quad x = 2^{\frac{k}{2}} - 1$$

- (2) (1) の結果から,  $x_k = 2^{\frac{k}{2}-1}$  であるから

$$S_n = \sum_{k=1}^n k(x_k - x_{k-1}) = \sum_{k=1}^n k(2^{\frac{k}{2}} - 2^{\frac{k-1}{2}})$$

$$= \sum_{k=1}^n \{k \cdot 2^{\frac{k}{2}} - (k-1) \cdot 2^{\frac{k-1}{2}}\} - \sum_{k=1}^n 2^{\frac{k-1}{2}}$$

$$= n \cdot 2^{\frac{n}{2}} - \frac{(\sqrt{2})^n - 1}{\sqrt{2} - 1}$$

$$= n(\sqrt{2})^n - (\sqrt{2} + 1)\{(\sqrt{2})^n - 1\}$$

$$= (n - \sqrt{2} - 1)(\sqrt{2})^n + \sqrt{2} + 1$$

4 (1)  $C$  の方程式は  $x^2 + y^2 = 1$

$x \neq 0$  のとき, 直線  $l$  の方程式は  $\frac{x}{s} + y = 1$

このとき,  $C$  と  $l$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$x^2 + \left(1 - \frac{x}{s}\right)^2 = 1 \quad \text{整理すると} \quad x\{(s^2 + 1)x - 2s\} = 0$$

$R$  の  $x$  座標は  $P$  と異なるから  $x = \frac{2s}{s^2 + 1}$

これを  $l$  の方程式に代入すると

$$\frac{1}{s} \cdot \frac{2s}{s^2 + 1} + y = 1 \quad \text{ゆえに} \quad y = \frac{s^2 - 1}{s^2 + 1}$$

$s = 0$  のときも上の  $R(x, y)$  は成立する.

よって, 求める  $R$  の座標は  $\left(\frac{2s}{s^2 + 1}, \frac{s^2 - 1}{s^2 + 1}\right)$

(2)  $s$  が有理数のとき,  $s = \frac{m}{n}$  ( $m, n$  は整数,  $n \neq 0$ ) とおくと

$$x = \frac{2s}{s^2 + 1} = \frac{2 \cdot \frac{m}{n}}{\left(\frac{m}{n}\right)^2 + 1} = \frac{2mn}{m^2 + n^2}$$

$$y = \frac{s^2 - 1}{s^2 + 1} = \frac{\left(\frac{m}{n}\right)^2 - 1}{\left(\frac{m}{n}\right)^2 + 1} = \frac{m^2 - n^2}{m^2 + n^2}$$

$R$  の  $x$  座標と  $y$  座標は, 有理数であるから,  $R$  は有理点である.

補足 右の図において,  $s = \tan \theta$  とおくと

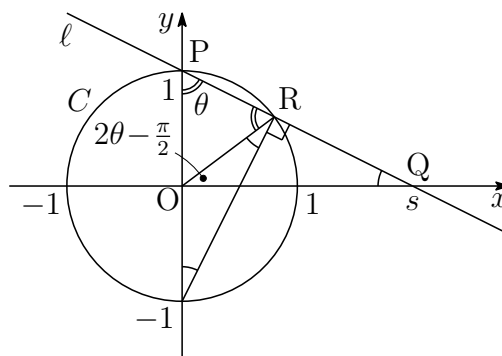
$(-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2})$ ,  $R(x, y)$  は

$$x = \cos\left(2\theta - \frac{\pi}{2}\right) = \sin 2\theta$$

$$= \frac{2 \tan \theta}{1 + \tan^2 \theta} = \frac{2s}{1 + s^2},$$

$$y = \sin\left(2\theta - \frac{\pi}{2}\right) = -\cos 2\theta$$

$$= -\frac{1 - \tan^2 \theta}{1 + \tan^2 \theta} = -\frac{1 - s^2}{1 + s^2}$$



■

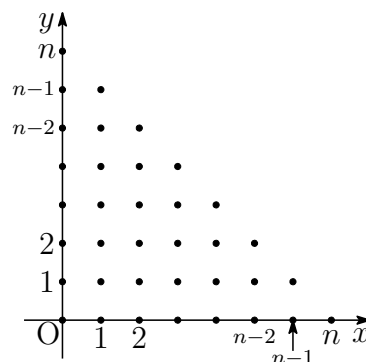
- 5 (1) 原点  $O$  の隣接点は,  $(1, 0)$ ,  $(0, 1)$  の **2** 個  
直線  $x+y = n$  上の格子点  $P(k, n-k)$  の隣接点の個数は  $(k = 0, 1, 2, \dots, n)$

$k = 0, n$  のとき 1 個,  $k = 1, 2, \dots, n-1$  のとき 2 個

- (2) 領域  $D$  内の格子点  $(x, y)$  で隣接点の個数が 4 であるものは,  $1 \leq k \leq n-2$  とすると, 直線  $x = k$  上には, 次の  $n-k-1$  個ある.

$(k, 1), (k, 2), \dots, (k, n-k-1)$

したがって, 求める個数は



$$\sum_{k=1}^{n-2} (n-k-1) = \sum_{k=1}^{n-2} k = \frac{1}{2}(n-2)(n-1) \quad (\text{個})$$

- (3) 格子点  $(n, 0)$ ,  $(0, n)$  は隣接点が 1 個ある.  
 $1 \leq k \leq n-1$  のとき, 格子点  $(k, n-k)$ ,  $(0, 0)$  は隣接点が 2 個ある.  
 $1 \leq k \leq n-1$  のとき, 格子点  $(k, 0)$ ,  $(0, k)$  は隣接点が 3 個ある.  
(1) で示した格子点は隣接点が 4 個ある.

領域  $D$  内の格子点の個数を  $N$  とすると

$$N = \sum_{k=0}^n (n+1-k) = \sum_{k=1}^{n+1} k = \frac{1}{2}(n+1)(n+2)$$

したがって, 隣接点の個数の期待値は

$$\begin{aligned} & \frac{1}{N} \left\{ 1 \cdot 2 + 2 \cdot n + 3 \cdot 2(n-1) + 4 \cdot \frac{1}{2}(n-2)(n-1) \right\} \\ &= \frac{2n(n+1)}{N} = \frac{2n(n+1)}{\frac{1}{2}(n+1)(n+2)} = \frac{4n}{n+2} \end{aligned}$$

この期待値が 3 以上であるとき  $\frac{4n}{n+2} \geq 3$  よって  $n \geq 6$  ■